■研究発表論文

厚木市を事例とした園芸ボランティア活動に対する近隣通行者の関心と参加意欲の検討

Pedestrians' Consciousness and Willingness to Participate toward Horticultural Volunteer Activities in Atsugi City

御手洗　洋蔵*　　宮田　正信**　　木村　正典**　　小池　安比古**

Yozo MITARAI　Masanobu MIYATA　Masanori KIMURA　Yasuhiko KOIKE

Abstract : Recently, there are many citizens' volunteer groups taking care of flower beds in their neighboring parks. In this study, we conducted a written survey with questionnaire asking the neighbor pedestrians passing around their neighboring parks--how they feel about the horticultural volunteer activities. We also examined the willingness to participate in the activities while the populations of each volunteer group members are gradually decreasing because of the aging society. We found that the neighbor pedestrians take the horticultural volunteer activities positively, especially creating comfort and beautiful spaces by planting flowers. We also found out the following three major reasons (or motivations) which prompted them to participate in horticultural volunteer activities; (1) the local residents who pay attention to the flower beds in the parks were tempted to join the activities;(2) residents--who recognized the existence of volunteers--are inclined to join the activities; and (3) residents--who are highly motivated to participate in community activities--were also willing to join these activities.

Keywords : *horticulture, volunteer activity, citizen participation, pedestrian*
キーワード ： 園芸，ボランティア活動，市民参加，通行者

１．背景・目的

これまで都市公園をはじめとする公共空間では，行政が中心となって整備や管理などを行ってきたが，近年，市民の余暇の拡大や街づくりへの関心の高まり，そして行政の財源ひっ迫などもあり [1]，公園花壇や街路空間などでは市民と行政との協働による草花の管理ボランティア活動（以下，本稿において「園芸ボランティア活動」とする）が数多く行われるようになった。市民ボランティアによって維持管理された花壇はただ美しいばかりではなく，地域を見守り安全な街をつくることにつながるとともに，地域コミュニティの形成にも役立つなど多くの利点を見出だすことができる [2]。

園芸ボランティア活動をはじめとする市民による緑化活動については多くの既往研究が存在する。まず活動者の意識を調査した研究についてみてみると，活動への参加動機を明らかにした研究 [3] や活動における活動者の自己評価について報告した研究 [4][5][6]，そして活動の問題点を明らかにした研究 [7][8][9]などがある。一方，公共空間で行われる園芸活動や緑化活動に対し，活動者でなない市民の意識を調査した研究について述べると，長沼・上甫木は近隣居住者によって行われる沿道の植枡での私的な園芸活動について周辺住民の意識を探り，植枡の園芸植物は地域の景観形成やコミュニティ形成に寄与している点において高く評価されていたと報告している [10]。大藪らは植枡周辺における植物栽培について通行者を対象に意識調査を行い，通行者は栽培されている植物が地域の景観形成に寄与していると認めつつも，私的な利用については否定的に捉えていたと述べている [11]。松井・平田も前述の研究と同様に，公共空間における私的な園芸活動について沿道の通行者にアンケート調査を行い，植枡での園芸活動における安全面や景観面に対する問題点を明らかにした [12]。

このように，これまでの既往研究では活動者の意識を調査したものは数多く存在するが，街中で行われる園芸活動や緑化活動について，活動者ではない市民の意識を調査した研究は少ない。さらに公共の場で行われる市民の私的な園芸活動に関してではなく，市民と行政の協働によって行われる園芸ボランティア活動に対する関心や認識などについて調査した研究はみあたらない。

また，近年，園芸ボランティア活動をはじめとする多くの市民活動では，参加者不足が問題となっている [7][8][9]。神奈川県厚木市では 2003 年より市民参加型の街づくり活動として，花壇における園芸ボランティア活動「花未来事業」を展開しているが，この事業においても他の多くのボランティア活動同様に参加者の不足が問題になりつつあるという。

そこで，本研究では神奈川県厚木市を事例に，市民ボランティアらによって管理されている花壇周辺を通行する市民に対しアンケート調査を行い，地域で行われる園芸ボランティア活動をどのように捉え，また認識しているかを明らかにするとともに，園芸ボランティア活動への参加意欲を調査し，参加意欲に関係する要因を探ることを目的とした。

２．研究の方法

（１）調査対象

本調査では公園内および公園外周の通行者を調査対象とした。調査対象を実際の通行者とすることで花壇の管理状態や園芸ボランティア活動に関する認識について、客観的なデータを取得することが可能であり，有効な回答を多く得られると考えられたためである。また，調査対象となる通行者を確保するため，園芸ボランティア活動「花未来事業」の行われている 50 公園の中から，公園の周辺環境に住宅地ならびに商業施設が近隣に位置していることを選定条件として，条件に該当する 7 公園を調査対象地として選定した（図－1）。

*東京農業大学大学院農学研究科　　**東京農業大学農学部

表－1 調査地およびボランティア団体の概要

公園名	公園の区分	公園の立地条件	公園面積（ha）	花壇面積（㎡）	ボランティア団体の概要		調査の回答者数（n）		
					メンバー数（n）	活動年数	8月	9月	10月
厚木さつき公園	街区公園	商業地域	0.23	22.2	9	5	10	12	14
中町公園	街区公園	商業地域	0.14	49.5	8	5	12	15	19
宮前公園	街区公園	第二種住居地域	0.21	19.2	7	6	10	8	15
若宮公園	地区公園	第一種低層住居専用地域	8.80	10.7	15	3	11	11	—z
厚木公園	街区公園	商業地域	0.44	27.3	7	4	12	20	20
そりだ公園	街区公園	準工業地域	0.15	8.8	9	7	10	14	12
依古田公園	街区公園	準工業地域	0.56	4.7	6	2	11	7	12

z：設置されている花壇の整備と重なり，調査を行うことができなかった

表－2 アンケート調査の内容

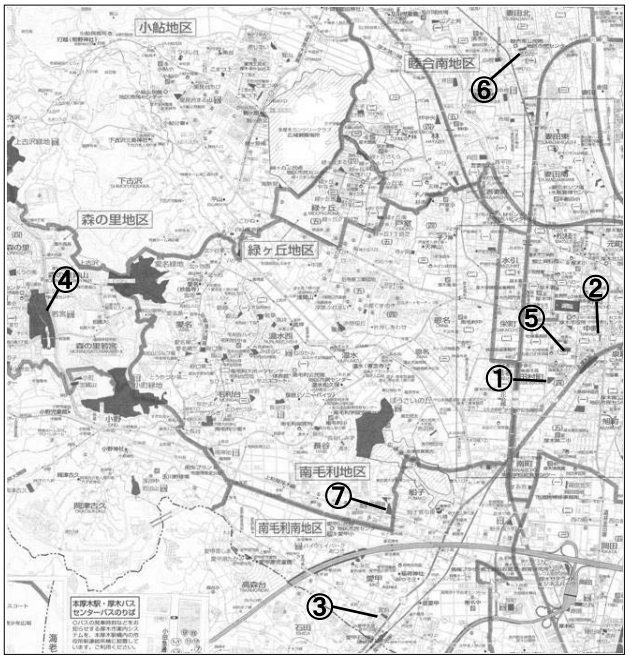
質問内容	選択肢の詳細
公園内や外周の通行頻度	「ほぼ毎日」「週3～4日程度」「週1～2日程度」「月1～2日程度」「ほとんど通らない」から単一回答
通行する際に花壇を見かける頻度	「頻繁にみる」「時々みる」「まれにみる」「全く見ない」から単一回答
地域活動への取り組み度合い	7：非常に積極的～1：非常に消極的の7段階から単一回答
市民ボランティアの認識	「認識している」「認識していない」から単一回答
公共空間の管理主体について	「すべて住民による活動」「住民主体の活動に行政が協力」「行政主体の活動に住民が協力」「すべて行政による活動」から単一回答
花壇の管理状態に対する評価	花壇の管理状態に対する質問4項目について，7：非常にそう思う～1：全くそう思わないの7段階から単一回答
園芸ボランティア活動への評価	園芸ボランティア活動に対する質問7項目について，7：非常にそう思う～1：全くそう思わないの7段階から単一回答
園芸ボランティア活動への参加意欲	「園芸ボランティア滑動に参加してみたいですか？」について，7：非常にそう思う～1：全くそう思わないの7段階から単一回答
参加理由	「植物が好きだから」「余暇を有意義に使いたいか」「人間関係が広がりそうだから」「地域の役に立ちそうな活動だから」 「適度に体を動かしたいから」「地域や会社などでボランティア活動を勧めていたから」「その他（　　）」から単一回答
不参加理由	「植物に興味がないから」「時間的に余裕がないから」「人間関係が面倒そうだから」「地域の役に立ちそうな活動ではないから」 「体力・健康上の理由」「同世代の参加者がみられないから」「その他（　　）」から単一回答
活動への参加に望む条件	「参加の自由度が高い」「同世代の参加者がいる」「新規団体であること」「友人・知人が団体内にいる」「団体からの募集があれば」 「団体の人数によって」「利用者の多い公園」「活動が活発な団体」「その他（　　）」から単一回答
属性	「性別」「年齢」「職業」それぞれについて単一回答

表－3 回答者の属性

属性	項目	回答者数（n）	割合（%）
性別	女性	144	56
	男性	111	44
年齢層	10代	14	5
	20代	11	4
	30代	32	13
	40代	14	5
	50代	34	13
	60代	88	35
	70代以上	62	24
職業	会社員	51	20
	専業主婦	80	31
	（定年）退職者・無職	72	28
	パート・アルバイトなど	22	9
	学生	16	6
	その他	14	5

（２）調査方法

本研究では，まず公園入口付近に調査員 3～4 名を配置し，公園内および公園外周を通過した人に対して調査への協力を依頼し，承諾が得られた際に個別面接調査法でアンケート調査を実施した。なお，調査対象となった地区公園に関しては公園の規模が大きいため，園芸ボランティア活動が実施されている公園東側入口付近（入口に隣接している駐輪場までを含む半径約 20m の範囲）を通行する人を対象とした。なお，この公園は調査対象地の中で唯一の地区公園であるが，地区公園も園芸ボランティア活動が行われていたためであり，調査対象地の選定条件に一致したことから，対象から除外することなく含めた。調査は 8 月，9 月，および 10 月に 1 公園につき各月 1 回，計 3 回行われた。調査時刻は午前 10 時～午後 12 時とした。本研究では既存の団体への参加を想定した調査項目があることから，ボランティア団体の多くが定例の活動時間帯と設定している時刻を調査時刻とした。ただし各公園での調査日はボランティア団体による活動日と一致しないように調整した。調査対象となっている公園と活動するボランティア団体の詳しい概要を表－1 に，アンケート調査の主な設問内容を表－2 に示す。アンケートの回答者数は計255名であった。回答者の属性については，女性と男性の比率はほぼ同数であった。年齢層では 60 代と 70 代が多く約 60%を占めていた。職業別では専業主婦，（定年）退職者・無職の順で多く約 60%を占める結果となった（表－3）。



①厚木さつき公園　②中町公園　③宮前公園　④若宮公園
⑤厚木公園　⑥そりだ公園　⑦依古田公園

図－1 調査対象公園の立地

（注：厚木市都市整備部公園緑地課編集の厚木市公園緑地マップ（2007）をもとに作成）

（３）統計処理

本調査では処理群間の独立性を検定する際，統計処理ソフト“R version 2.13.1[13]”を用いて Fisher の正確確率検定を行った。

３．結果

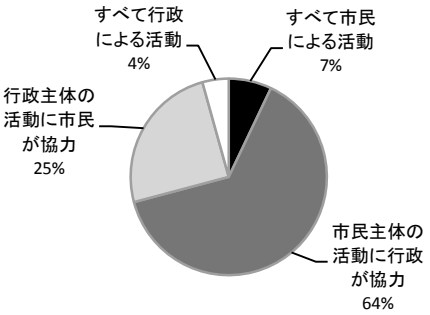
（１）公園および近隣地域における通行者の実態

１）公園内・周囲を通行する頻度と花壇を見かける頻度

表－4 市民ボランティアの認識と公園内・周囲の通行頻度および花壇を見かける頻度

項目名	詳細	認識している		認識していない		検定結果
		人数(n)	割合(%)	人数(n)	割合(%)	
公園内・周囲の通行頻度	ほぼ毎日	39	60	26	40	***z
	週3～4日	31	55	25	45	
	週1～2日	19	35	36	65	
	月1～2日	7	15	41	85	
	ほとんど通らない	5	16	26	84	
花壇を見かける頻度	頻繁にみる	59	56	47	44	***
	時々みる	31	37	53	63	
	まれにみる	8	22	28	78	
	全くみない	3	10	26	90	

z:Fisherの正確確率検定により，***:0.1%水準で有意差あり



図－2 公共空間の管理に望む主体
（n=255）

まず，近隣通行者に対して普段どの程度，公園内や公園の周囲を通行するかを質問したところ，「ほぼ毎日」と回答した人が25%と最も多く，次いで「週1～2日程度」・「週3～4日程度」でともに22%，「月1～2日程度」19%，「ほとんど通らない」12%の順であった。

続いて，「公園を訪れる，あるいは公園の周囲を通られる際に花壇をご覧になりますか？」と質問したところ，「頻繁にみる」と回答した人が42%で最も多く，次いで「時々みる」33%，「まれにみる」14%，「全くみない」11%の順であった。

次に，公園内・周囲を通行する頻度と花壇を見かける頻度についてクロス集計したところ，公園内・周囲を通行する頻度が高まるにつれて，花壇を見かける頻度も高まる傾向にあった。

２）地域活動に対する取り組み度合い

通行者自身が居住している地域での自治会・町内会活動（イベント・定期清掃など）に対してどの程度積極的に取り組んでいるかを把握するため，地域活動への積極性を7段階（7：非常に積極的～1：非常に消極的）で質問した結果，地域活動に積極的と考えられる人（7：非常に積極的3%＋6：積極的10%＋5:やや積極的21%）の割合は34%，どちらでもない人19%，地域活動に消極的と考えられる人（3：やや消極的20%＋2：消極的17%＋1：非常に消極的10%）47%であった。

（２）園芸ボランティア活動と公共空間の管理主体

１）公園で活動する市民ボランティアの認識

公園の花壇において市民ボランティアらが花壇を管理していることを認識しているかをたずねたところ，市民ボランティアによる管理だと認識している人は40%，ボランティアによる管理だと認識していない人は60%であり，市民ボランティアによる管理だと認識している人は認識していない人に比べて少ないことがわかった。

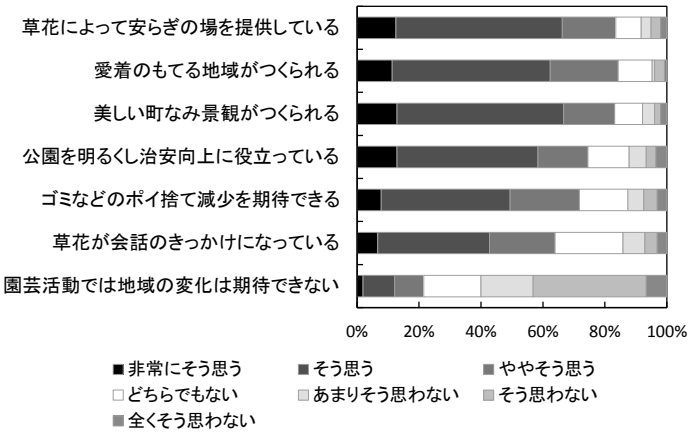
次に市民ボランティアの認識と公園内・周囲の通行頻度および花壇を見かける頻度で独立性の検定を行った結果，公園内・周囲の通行頻度と花壇を見かける頻度両方において0.1%水準で有意な差がみられ，ともに頻度が多くなるにつれて市民ボランティアを認識する人も増加する傾向にあった（表－4）。

２）公共空間の管理に望む主体

公共空間を管理する場合，望ましいと思われる管理主体をたずねたところ，最も回答率の高かった項目は「市民主体の活動に行政が協力」64%，次いで「行政主体の活動に市民が協力」25%，「すべて市民による活動」7%，「すべて行政による活動」4%の順であった。このことから，行政の協力は必要とするものの，市民主体の活動を支持する人が過半数を超えた（図－2）。

３）園芸ボランティア活動に対する意識

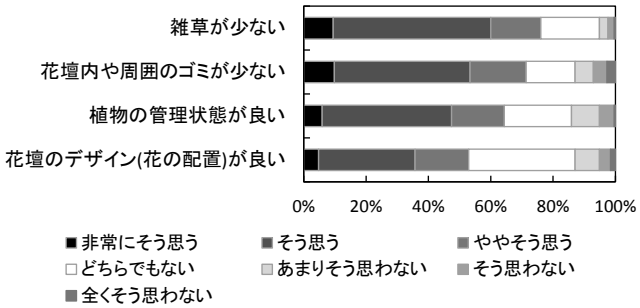
通行者が園芸ボランティア活動をどのように捉えているかを7段階（7：非常にそう思う～1：全くそう思わない）で質問したところ，「非常にそう思う」，「そう思う」，「ややそう思う」を合わせた回答の最も多かった項目は，「草花によって安らぎの場を提供している」と「愛着のもてる地域がつくられる」ともに84%であった。次いで「美しい街なみ景観がつくられる」83%，「公園を明るくし治安向上に役立っている」74%という結果であった。反対に「園芸活動くらいでは地域の変化は期待できない」という項目に対しては21%であった。このことから，通行者の多くは園芸ボランティア活動を肯定的に受け入れており，反対に否定的に捉えている人は少ないことがわかった（図－3）。



図－3 園芸ボランティア活動に対する意識(n=255)

４）花壇の管理状態に対する意識

通行者が花壇の管理状態についてどのように捉えているのかを把握するため7段階（7：非常にそう思う～1：全くそう思わない）で質問したところ，「非常にそう思う」，「そう思う」，「ややそう思う」を合わせた回答の最も多かった項目は，「雑草が少



図－4 花壇の管理状態に対する意識(n=255)

ない」76%，次いで「花壇内や周囲のゴミが少ない」71%，「植物の管理状態が良い」64%，「花壇のデザイン(花の配置)が良い」53%という結果であった（図－4）。

（３）園芸ボランティア活動への参加に対する意識

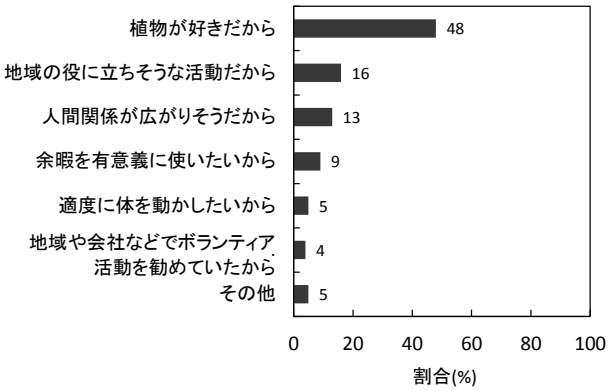
１）園芸ボランティア活動への参加意欲

「今後，園芸ボランティア活動に参加してみたいと思いますか？」と活動への参加意欲を７段階（7：非常にそう思う～1：全くそう思わない）で質問したところ，活動への「参加意欲が高い」と考えられる人（7：非常にそう思う 3%＋6：そう思う 14%＋5：ややそう思う 17%）の割合は 34%，「どちらでもない」31%，「参加意欲が低い」考えられる人（3：あまりそう思わない 14%＋2：そう思わない 14%＋1：全くそう思わない 7%）35%であり，参加意欲が高いと考えられる人，どちらでもない人，参加意欲が低い考えられる人はほぼ同数であった。

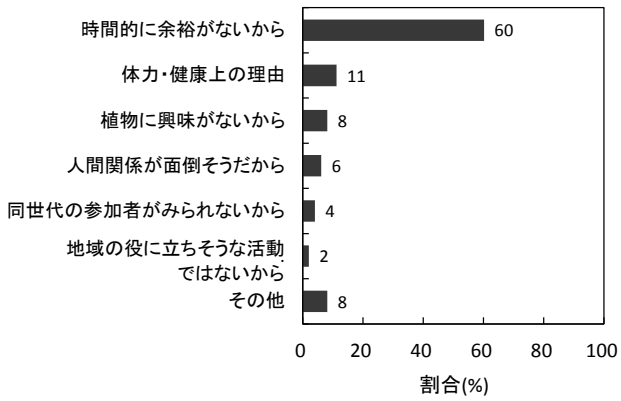
２）園芸ボランティア活動への参加・不参加理由

次に「参加意欲が高い」と考えられる人に，活動への参加を希望する理由について最も適切なものを一つ選んでもらったところ，約半数の人が「植物が好きだから」と回答し，次いで「地域に役立ちそうな活動だから」16%などであった（図－5）。このことから，活動への参加を希望する人の多くが，植物への興味・関心の高い人であることがうかがえる。

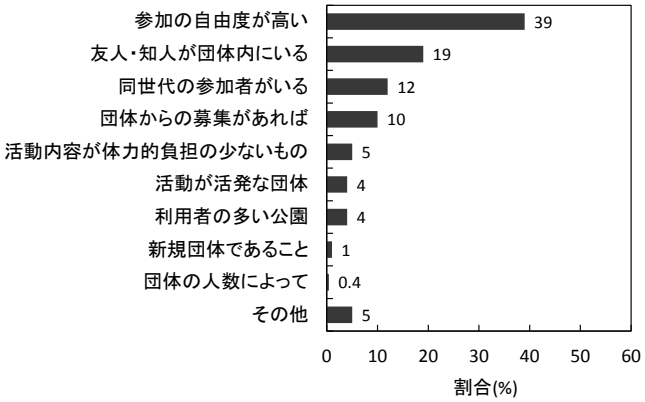
反対に活動への「参加意欲が低い」と考えられる人に対して，活動への参加を希望しない理由ついて最も適切なものを一つ選択してもらったところ，60%の通行者が「時間的に余裕がない」と回答し，次いで回答率の高かった項目は「体力・健康上の理由」11%，「植物に興味がないから」8%などであった（図－6）。



図－5 園芸ボランティア活動への参加を希望する理由：単一回答（n=81）



図－6 園芸ボランティア活動への参加を希望しない理由：単一回答（n=98）



図－7 参加しやすい園芸ボランティア活動の条件：単一回答（n=255）

３）園芸ボランティア活動に参加する際に望む条件

園芸ボランティア活動に参加する際に，どのような条件だと参加しやすいかを質問した。回答率上位の項目について述べると，最も回答率の高かった項目は「参加の自由度が高い」39%，次いで「友人・知人が団体内にいる」19%，「同世代の参加者がいる」12%，「団体からの募集があれば」10%などであった（図－7）。

（４）園芸ボランティア活動に対する参加意欲とその要因

参加意欲に関わる要因を探るため，性別，年齢，公園内・周囲の通行頻度，花壇を見かける頻度，地域活動への取り組み度合い，活動する市民ボランティアの認識，公共空間の管理に望む主体の 7 要因についてそれぞれ検証した。その結果を表－5に示す。

まず，通行者の属性について参加意欲との関係を検証した。性別について述べると，女性では「参加意欲が高い」，「どちらでもない」，「参加意欲が低い」は各々35%，32%，33%，男性では各々31%，28%，41%であった。性別で独立性の検定を行ったが有意な差異は認められなかった。続いて，参加意欲と年齢層との関係を探るため，年齢層を若年層（10～20 歳代），青年層（30～40 歳台），壮年層（50～60 歳代），および老齢層（70 歳代以上）の４段階に分けてクロス集計を行ったところ，若年層では「参加意欲が高い」，「どちらでもない」，「参加意欲が低い」は各々28%，44%，28%，反対に老齢層では各々39%，21%，40%であった。この結果より，年齢層が上がるにつれて「参加意欲が高い」人，「参加意欲が低い」人ともに増加する傾向がみられたが，有意な差はみられなかった。

次に，活動への参加意欲と公園内・周囲の通行頻度について関連性を検証したところ，「ほぼ毎日」と回答した人では「参加意欲が高い」，「どちらでもない」，「参加意欲が低い」は各々40%，15%，45%，一方で「ほとんど通らない」と回答した人では各々32%，39%，29%であった。2 変数間で独立性の検定を行った結果，参加意欲と公園内・周囲の通行頻度の間に関連性は認められなかった。

続いて，参加意欲と花壇を見かける頻度について関連性を検証したところ，有意な差が認められた。花壇への注目頻度で「頻繁にみる」と回答した人のうち「参加意欲が高い」，「どちらでもない」，「参加意欲が低い」は各々43%，26%，30%であった。一方，花壇を「全くみない」と回答した人では，各々10%，31%，59%であった。このことより，花壇を見かける頻度が高まるにつれて活動への参加意欲も高まる傾向にあることがわかった。

参加意欲と地域活動への積極性について独立性の検定を行った結果，有意な差が認められた。地域活動に「積極的」と考え

表－5 参加意欲に関係する要因の検証

項目名	詳細	参加意欲が高い		どちらでもない		参加意欲が低い		検定結果
		人数(n)	割合(%)	人数(n)	割合(%)	人数(n)	割合(%)	
性別	女性	50	35	46	32	48	33	n.s.[z]
	男性	34	31	31	28	46	41	
年齢層	若年層	7	28	11	44	7	28	n.s.
	青年層	10	22	20	43	16	35	
	壮年層	43	35	33	27	46	38	
	老年層	24	39	13	21	25	40	
公園内・周囲の通行頻度	ほぼ毎日	26	40	10	15	29	45	n.s.
	週3～4日	16	29	20	36	20	36	
	週1～2日	16	29	23	42	16	29	
	月1～2日	16	33	12	25	20	42	
	ほとんど通らない	10	32	12	39	9	29	
花壇を見かける頻度	頻繁にみる	46	43	28	26	32	30	*
	時々みる	24	29	31	37	29	35	
	まれにみる	11	31	9	25	16	44	
	全くみない	3	10	9	31	17	59	
地域活動への取り組み度合い	積極的	42	48	21	24	24	28	**
	どちらでもない	7	14	28	57	14	29	
	消極的	35	29	28	24	56	47	
市民ボランティアの認識	認識している	42	42	25	25	34	34	*
	認識していない	41	27	53	34	60	39	
公共空間の管理主体	すべて市民による活動	8	44	7	39	3	17	n.s.
	市民主体の活動に行政が協力	49	30	49	30	64	40	
	行政主体の活動に市民が協力	24	38	18	29	21	33	
	すべて行政による活動	3	27	3	27	5	45	

z:Fisherの正確確率検定により，**:1%水準で有意差あり，*:5%水準で有意差あり，n.s.:有意差なし

られた人のうち「参加意欲が高い」，「どちらでもない」，「参加意欲が低い」は各々48%，24%，28%，一方「消極的」と考えられた人では各々29%，24%，47%であり，地域活動に積極的な人で「参加意欲が高い」の回答が高かった。よって参加意欲と地域活動への積極性は強く関係しているといえる。

参加意欲と活動する市民ボランティアの認識について関連性をみたところ，市民ボランティアによる管理だと認識している人のうち「参加意欲が高い」，「どちらでもない」，「参加意欲が低い」は各々42%，25%，34%，一方，認識していない人では各々27%，34%，39%であった。独立性の検定を行った結果，市民ボランティアに対する認識の違いによって有意な差がみられた。

参加意欲と公共空間の管理に望む主体についてクロス集計したところ，すべて市民による活動を望む人では「参加意欲が高い」，「どちらでもない」，「参加意欲が低い」は各々44%，39%，17%，一方，すべて行政による活動を望む人では各々27%，27%，45%であった。花壇の管理に対して市民の関わりを強く望む人ほど，活動への参加意欲も高まる傾向にあったが，2 変数間で独立性の検定を行ったところ有意な差は認められなかった。

4．考察

本研究では，神奈川県厚木市を事例に市民ボランティアらによって管理されている花壇周辺の通行者が，地域で行われる園芸ボランティア活動をどのように捉え，また認識しているかを明らかにするとともに，園芸ボランティア活動への参加意欲に関係する要因を探ることを目的とした。

（1）園芸ボランティア活動に対する関心

公園内または周囲の通行者に対し近隣の公園に設置されている花壇において，市民ボランティアらがその管理を行っていることを知っているかたずねたところ，市民ボランティアによる管理だと認識している人は認識していない人より少ない結果となった。そして，市民ボランティアの認識について公園内・周囲の通行頻度および花壇を見かける頻度との関係性を検証した結果，市民ボランティアの認識は公園内・周囲の通行頻度と花壇を見かける頻度の両方と強く関係していることがわかった。この結果は，通行頻度と見かける頻度の両方において，頻度が高まるほど実際に活動する市民ボランティアを目にする機会も多くなることが背景にあると推測できる。

公園近隣の通行者に花壇で行われる園芸ボランティア活動や花壇の管理状態についてどのように捉えているかを調べたところ，園芸ボランティア活動について述べると，人々に安らぎの場を提供していること，地域の景観形成に貢献していること，そして愛着のもてる地域づくりに貢献していることについて多くの通行者が肯定的に捉えていた。花壇の管理状態に対しては，雑草や花壇周辺のゴミの少ないことについて多くの通行者が肯定的に捉えていることがわかった。これは，市民ボランティアらの定期的な管理が成果を上げているとみてとれる。一方，花壇の植栽デザインについては肯定的に捉えている人が約半数と少なかった。安尾らは園芸ボランティア活動の参加者に意識調査を行い，行政担当者以外に活動を支援するサポートスタッフがいる場合，参加者の多くが彼らに植栽のデザインに対するアドバイスを期待していたと報告するとともに，サポートスタッフの有用性を述べている[5]。厚木市では上記のような支援制度は導入されていない。今後，このようなサポートスタッフ制度の導入や希望者への植栽デザインに関する講習会などの開催は，花壇における植栽のデザイン性向上の一助になると期待される。

園芸ボランティア活動などの公共空間の管理主体について質問したところ，多くの通行者が市民主体であることが望ましいと考えていることがわかった。しかしながら，すべて市民による管理を望む人は 7%と少数であり，市民主体の活動ではあるものの，行政との協働であることが望ましいと 60%を超える人が捉えていることが明らかとなった。これは上田らの研究にも

述べられているように，すべて市民による管理となれば活動者への負担も増すことから，苗や種子の提供などの行政支援も必要[14]という通行者の意識が背景にあると推察される。

（２）園芸ボランティア活動への参加

通行者に対して，実際の園芸ボランティア活動への参加意欲をたずねた結果，参加意欲の高い人はおよそ30%で，参加を希望する理由としては主に植物への興味・関心が挙げられた。一方，参加意欲の低い人は約40%おり，参加を希望しない理由としては時間的な余裕のなさが主に挙げられた。このことから，参加を希望する人に対しては，行政による園芸講座やガーデンツアーなどを含めたボランティアプログラムを計画・企画することで活動への参加意欲をより高めることにつながると考えられる。一方，参加意欲の低い人に対しては，それぞれのライフスタイルに応じた支援制度の確立が必要といえよう。

園芸ボランティア活動への参加意欲に関係する要因を検証した結果，市民の参加意欲には公園内・周囲の通行頻度との関係性は認められず，花壇を見かける頻度と強く関係していることが明らかとなった。また，活動への参加を希望する人の参加理由として，半数の通行者が植物への興味・関心を挙げている。よって，活動への参加意欲に関し公園内・周囲の通行頻度ではく，花壇を見かける頻度で関係した背景には，植物への興味・関心があるとみてとれる。

活動への参加意欲には市民ボランティアによる活動だという認識が関係していることも明らかとなった。この結果は湯本らの研究結果と一致する[15]。従って，活動団体名などを記したプレートの設置は，活動するボランティア団体に対する認識を高めることにもつながり，参加者の確保が期待される。さらに，活動への参加意欲と地域活動への積極性についても強い関係性が認められた。このことから，地域のボランティア活動や自治会・町内会活動などに積極的な市民などへの参加の呼びかけも有効といえる。

（３）まとめ

以上のように，公園近隣を通行する市民は園芸ボランティア活動を肯定的に捉えていることがわかった。中でも，草花によって安らぎの場を提供し，街の美しい景観を形成していることについて，より肯定的に捉えていた。花壇の管理状態に対し植栽デザインについては肯定的に捉えている人は約半数と少なかったものの，雑草の少なさなどについては適切な管理がなされていると，多くの通行者が捉えているといえる。そして，活動に対する通行者の参加意欲には，通行者の属性や公園周囲を通行する頻度よりも，花壇を見かける頻度，活動する市民ボランティアの認識，および地域活動への積極性が強く関係していると考えられた。

謝辞

本研究を進めるにあたり，ご協力いただきました神奈川県厚木市民の方々に感謝の意を表します。

引用文献

1）中橋文夫（2006）：公園緑地のマネジメント：学芸出版社，159pp

2）山浩美・澤登早苗（2008）：多摩市における園芸ボランティアを成功に導くための基礎研究：恵泉女学園大学園芸文化研究所報告　園芸文化　5，158-166

3）Todorova，A.・浅川昭一郎・愛甲哲也（2004）：札幌市を事例とした街路の花植えへの住民参加に関する研究：環境情報科学 32（5），111-118

4）倉本　宣・永井敬子（2002）：桜ケ丘公園雑木林ボランティアの活動と組織に対する意識：ランドスケープ研究　65（5），455-460

5）安尾昌子・森田年則・平田富士男（2003）：「有料貸し花壇方式による」市民参画型公園管理の可能性の検証：住総研「住まい・まち学習」実践報告・論文集　4，131-136

6）辰井美保・藤井英二郎（2006）：市民による里山管理活動が植生と参加住民の意識に与える影響：ランドスケープ研究 69（5），777-780

7）栗田和弥・植竹薫（1999）：関東地方における市民による環境 NPO の自然環境保全活動に関する研究：ランドスケープ研究　62（4），400-404

8）中島敏博・古谷勝則（2005）：学生意識に見る若者の緑地保全活動への参加意思誘発プロセス：環境情報科学論文集　19，151-156

9）原　未季・一ノ瀬友博（2009）：神奈川県横浜市及び鎌倉市において里山保全活動を行う市民団体の特徴と課題：都市計画報告集　7，77-81

10）長沼真美・上甫木昭春（2003）：神戸市の街路空間における沿道住民による「勝手花壇」の実態と住民意識に関する研究：ランドスケープ研究　66（5），819-824

11）大薮崇司・下村 孝・小松さち恵（2004）：住民へのアンケートによる京都市内の街路空間における植物栽培の実態調査：ランドスケープ研究　67（5），717-722

12）松井美菜子・平田富士男（2006）：神戸市における市民の植枡利用が街路樹の生育環境に与える影響とその認識に関する研究：ランドスケープ研究　69（5），631-634

13）R Development Core Team　(2011)： R: A language and environment for statistical computing：R Foundation for Statistical Computing,Vienna,ISBN3-900051-07-0,<http://www.R-project.org/>

14）上田真代・松田泰明・三好達夫（2010）：沿道の緑の維持管理に関する意識について－地域住民および道路管理者を対象とした意識調査－：第53回（平成21年度）北海道開発局技術研究発表会

15）湯本裕之・倉本　宣（2005）：都市部ニュータウンにおける竹林の環境保全機能に対する住民の意識：ランドスケープ研究　68（5），773-778